

## 認定介護福祉士（仮称）検討の視点 （事務局による議論のたたき台）

資料4

### ＜基本的な考え方＞

- 生活を支える専門職としての資質を高め、現場の介護福祉士にとって魅力ある仕組みとすることが必要。
- 現時点で介護福祉士の資格を取得していない介護職員や、利用者、家族、事業者、他職種、ひいては国民にとっても分かりやすく納得感が得られる仕組みとすることが必要。
- 「地域包括ケア体制の整備」「障害者施設入居者の地域生活への移行」等といった点も踏まえた仕組みとしていくことが必要。



- 認定介護福祉士の役割や「できること」をどのように考えていくべきか。
  - ★ 例えば、「介護福祉士の養成課程では修得できない知識・技術・実践力等を備えている者」という観点から検討していくことが考えられないか。
  - ★ 事務局として考えられる具体例（イメージ）は次ページのとおり。

## イメージ例

注) 以下のような考え方自体が妥当か否か、他にどのような役割が考えられるか等と  
いった点について、忌憚のない御議論をいただきたい。

### 1. 医療との「つなぎ」的な役割

(例)

- 在宅療養・介護を進めていく上で必要な医学的知識の修得
  - ★ 医療職とのコミュニケーションを密にし、職種間連携のキーパーソンとして、医療職に対して必要な意見具申等を行うことができる。具体的には、日常生活動作の維持・改善、QOLの向上等といった視点からの連携等。
- 認知症医療やリハビリテーション等に関する知識
- …… (他にどのようなものが考えられるか?)

### 2. 「複合的困難事例」に主体的に対応する役割

(例)

- 高齢化した障害者に対する適切なケア (障害の重度化と新たな疾病の併発モデル)
- 重度認知症高齢者に対する在宅生活の支援 (在宅認知症ケアモデル)
- 慢性疾患を抱える在宅療養高齢者に対するケアの実践 (在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションとの連携モデル)
- …… (他にどのようなものが考えられるか?)

### 3. エビデンスを基礎とした介護現場の「指導的」役割

(例)

- 適切な介護サービスを提供するための根拠となる知識・技術を修得した上で、個別ケースから汎用的な知見を抽出し、実践や教育にフィードバックできる能力を発揮
- チームケアの中心的役割を担い、かつ、現場の介護福祉士・介護職員の指導的役割を担うことにより、ケアの質を向上
- …… (他にどのようなものが考えられるか?)